

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 5 月 29 日
② 法人・団体名	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	埼玉県さいたま市浦和区高砂		
③ 責任者氏名	土屋 匠宇三	(役職名等)	代表理事
④ 担当者氏名	竹林 志保	(役職名等)	本部事務担当

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R06-037	⑦助成金額	147 万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨奨学活動名	生活困窮世帯への学習支援における支援者向け研修				
⑩主な実施場所名・及びその住所	さいたま共済会館、事務所（さいたま市・桶川市・春日部市・秩父市・越谷市・本庄市・狭山市・坂戸市・白岡市）				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

全学習支援員を対象とした全体研修をさいたま市内の会場にて 3 回、ボランティア全体研修を 1 回、そのほか各事務所の自主企画による研修を 20 回以上実施した。学習支援員全体研修では内外の講師を駆使して「学習教室運営」「アスポートでの学びの意味」「児童福祉法改正と支援」「学校の状況と子ども・教材のあり方と教材づくり」などをテーマに実施した。ボランティア研修では「実践共有」をさらに具体的なテーマでグループトーク後、内容の共有をはかった。自主企画では各事務所で足りないところ、知りたいことをテーマに実施した。

テーマに合わせて実施形態を工夫し、外部の専門家を講師とすることで、参加者の関心も高まり、各事務所の自主企画にレベルアップの効果があつた。視野が広がり、学習支援活動を磨くための研修への要望も具体的に提案することができるようになった。いずれも研修も日頃の支援現場での実践に直結するものであつた。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等				
高校生等				
大学生等	20	2	40	
学習支援員等	600	2	1,200	
その他	121	計算根拠	606	指導員 91 名×6 時間、社会人ボランティア 30 名×2 時間
合 計			1,846	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：生活困窮世帯への学習支援における支援者向け研修

法人・団体名：一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク
作成者 氏名：竹林 志保

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

生活困窮世帯等の子どもへの学習支援事業を受託する団体として、支援するスタッフの資質向上を目的とした研修を開催してきた。当初、現場で実務を担っている学習支援員自身が研修を組み立てていたが、企画力を高めるには資金・時間の物理的な限界があった。助成金を活用することで外部講師を招聘、より専門的な研修の実施と研修コーディネーターの設置を実現することができ現在に至っている。

今年度助成期間中に実施した研修は、「2. 実施した奨学活動の詳細」のとおり。

2. 実施した奨学活動の詳細

- ・活動内容の詳細・参加人数・周知方法や協力いただいた関係者・地域やボランティア活動との連携
- ・学習支援員について・購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）

【学習支援員研修】（第一回：4 月実施、第二回：6 月実施したが、いずれも助成期間外）

実施日	研修名（人数）	プログラム	備考
2024/9/18	第三回 全体研修 (79)	今後の見通し	土屋（本部）
		児童福祉法改正と必要な支援について	子ども家庭庁 支援局 胡内敦司氏
2024/11/20	第四回 全体研修 (78)	講演 1 学校で子どもたちの置かれている状況	渡辺（桶川）
		講演 2 「わかるって楽しい」	渡辺（桶川）
		十進位取り目づくりワーク・感想交流	

【ボランティア全体研修】

2024/8/25 24 名（学生ボランティア 5 名、社会人ボランティア 14 名、学習支援員 5 名）

「話しちゃおう！あなたの実践～「やってよかった！」「やってみたい！」ボランティア実践共有～」

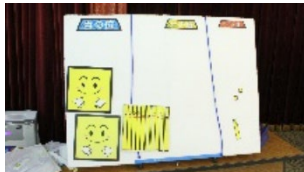
【自主企画】

センター	実施日	研修名	講師	参加者（人数）
桶川	2024/7/10	施設で暮らす子どもたちとの共通点と教室の子どもたち相違点	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
桶川	2024/7/24	救命救急講習	桶川消防署員	桶川学習支援員（11）
桶川	2024/8/28	教室と子ども理解	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
桶川	2024/10/9	教材研究の工夫について	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
桶川	2024/10/23	今の子どもの文化	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
桶川	2024/11/13	行政との関係づくりについて（来年度につなげるために）	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
桶川	2024/12/11	教室と子ども理解—訪問等における信頼関係づくり	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
桶川	2025/1/15	教室と子ども理解—生活保護制度について	桶川学習支援員	桶川学習支援員（11）
春日部	2024/6/27	学習支援事業におけるソーシャルワーク	春日部学習支援員	春日部学習支援員（8）
本庄	2024/6/15	スクールソーシャルワーカーから困難を抱える生徒との関わり方を聞く	ソーシャルワーカー	本庄学習支援員
本庄	2025/3/8	子どもと楽しむフレスコ画	本庄学習支援員	本庄学習支援員、学習指導員、ボランティア（20）
秩父	2024/9/12	障害者手帳制度について	埼玉県 障害者福祉推進課 障害福祉担当 主幹	秩父学習支援員、チューター（9）
秩父	2024/7/26	特別支援教育について学ぶ	③埼玉県立秩父特別支援学校 コーディネーター 2 名、進路指導主事 1 名	秩父学習支援員、白岡学習支援員（6）
狭山	2025/1/29	ぎ、地域資源の開拓	社会福祉団体	狭山学習支援員（8）
坂戸	2024/10/16	ネットリテラシー	坂戸学習支援員	坂戸学習支援員（10）
坂戸	2024/12/27	支援員・指導員・ボランティアのミーティング	坂戸学習支援員	坂戸学習支援員・指導員・ボランティア（20）
越谷	2024/10/4	救命救急講習	消防署員	桶川学習支援員、チューター（15）
浦和	2024/9/4	若年女性を取り巻くリスク・社会課題	女性のスペース結	浦和学習支援員（21）
浦和	2024/12/4	ジュニアアスポートのケーススタディ	浦和学習支援員	浦和学習支援員（21）
白岡	2025/2/28	各市町村の実態と支援の共有	白岡学習支援員	白岡学習支援員（6）
白岡	2025/3/7	見守支援とは	白岡学習支援員	白岡学習支援員（6）

自主企画の一例「特別支援教育について学ぶ」

日時	2024年7月26日（金）
場所	彩の国子ども・若者支援ネットワーク 秩父センター
目的	現在支援対象者に小中の特別支援級や県立秩父特別支援学校に通う子どもがとて も多くなっている。特別支援学校に入学する場合の基準、卒業後に向けた進路保障 の取り組みなどについて知り、指導や対保護者相談活動に役立てる。
講師	① 埼玉県立秩父特別支援学校 コーディネーター 小澤 典子 氏 同 上野 陽平 氏 進路指導主事 佐藤 勉 氏
参加者	秩父センター全支援員（5名）と白岡センター支援員1名 計6名
内容	【特別支援学校入学まで】 ・政府のインクルーシブ教育システム構築のための文書より就学先の決定 ・障害のある児童生徒の就学先決定手続きの流れ ・障害の種類、程度と学校の種類 【特別支援学校での生活】 ・秩父特別支援学校の概要 ・一日の生活、学びの内容 ・教育支援プランと自立活動 ・交流と共同学習 ・学校公開、学校見学 【秩父特別支援学校高等部の進路保障】 ・就労準備性について ・就職指導の流れと、障害者手帳との関わり ・卒業後の就職の仕方の種類 ・秩父特別支援学校卒業生の進路状況

上段：全体研修、下段：ボランティア研修の案内、自主企画研修



テーマトーク紹介

1 子どもの発達について
話し合おう！

発達障害とは、生まれつきまたは後天的に脳の機能に異常が生じ、学習やコミュニケーションに困難が生じる状態のことです。近年、その数は増加傾向にあります。

2 子どもの学習について
話し合おう！

発達障害のある子どもは、学習に困難が生じることが多くあります。適切な学習支援や教材の工夫が必要です。

3 子どもの生活について
話し合おう！

発達障害のある子どもは、日常生活に困難が生じることが多くあります。適切な生活支援や環境の工夫が必要です。

4 不登校の子どもについて
話し合おう！

不登校は、さまざまな理由によって生じます。適切な支援や理解が必要です。

お申し込み（定員あり）

お申し込みは、お申し込み用紙を提出してください。

お問い合わせ

お問い合わせは、お電話またはメールでお願いします。

11/20 全体研修で購入・準備したもの（人数分）：シール貼付が難しいもの 赤字が購入したもの

準備するもの	分担	備考
折り紙（10cm×10cm）	本部	ひとり3枚 分数
罫線付きのレポート用紙	本部	ひとり1枚 分数
カラー工作用紙 A3	本部	ひとり1枚 位取りタイル（切取り線コピー）
チャック袋	本部	ひとり1枚 位取りタイル 収納用
新聞紙	本部	ひとり1枚 1L ます

紙テープ	本部	ひとり 2m1 本（または 2 人で 2m1 本） 分数
紙コップ 100 ml	本部	ひとり 1 個 【持ち帰りお土産】
九九時計	本部	センター1 個【持ち帰りお土産】 本部で作製 8 個（1 個当たり釘 10 本、図柄、カバースール、色ゴム 1m、木版 10cm×10cm）
半九九	本部	センター1 セット（紙またはデータ）
ワークシート	本部	センター1 セット（紙またはデータ）

【外部研修】

実施日	研修名	主催	備考
202411-202502	R6テーマ別研修	社会福祉法人 全国社会福祉協議会	
20241004	こども・若者育成支援研修	こども家庭庁	
20241109-1110	生活困窮者自立支援全国研究交流大会	一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネットワーク	愛知県（7名）
20241127	ケアラー支援関係機関向け研修	埼玉県福祉部	
20241130-1201	日本子ども虐待防止学会第30回学術集會かがわ大会	日本子ども虐待防止学会	香川県（4名）
20241205-06	第2回女性支援新法全国フォーラム	厚生労働省社会・援護局総務課女性支援室	
20241218	令和6年度依存症対策普及啓発講演会	埼玉県立精神保健福祉センター	
20250114	生活困窮者自立支援制度人材養成研修	社会福祉法人 全国社会福祉協議会	
20250204	第3回ネットワークづくり研修会チラシ	埼玉県県民生活部青少年課	
20240923	女性のためのセミナー	With You さいたま	
20240925	生活保護バッシング	埼玉弁護士会	
20241105	R6発達障害が疑われる若者の理解と支援（ネットワーク研修会）		
20241123	子どもの居場所フェアセミナー	埼玉県こどもの居場所フェア実行委員会	
20250221-0323	こども・若者自殺予防講演会	埼玉県立精神保健福祉センター	
20250305	加害者対策研究会	埼玉県県民生活部男女共同参画課	
20250305	見守り体制強化促進のための広報啓発事業 オンラインセミナー	こども家庭庁	

外部研修報告（部分）

弱い者いじめをする社会は、生きる意味が貧困化する社会である。つまり思いやりを起点とする社会にしていくためには、現代の「孤独」を解消する必要がある。スリランカでは孤独な人に悪 が憑くとされ「悪 祓い」が行なわれており、日本の現代社会にもこれが当てはまるのではないかと。人が周囲にたくさんいても孤独で、迷惑をかけたくないという若者たち。温かい人間の 外へ出てしまうと、悪魔の眼差しがやって来て、悪 に流されてしまう。闇バイトはその典型例であり、親に迷惑をかけないように闇バイトを行ない、最終的には親に最大の迷惑をかけることになる。深い繋がり、深い信頼をわかりやすく明示しないと相談できない、関係性の貧困（＝孤独）が原因。経済構造も問題ではあるが、孤独を回避するには物事の解決を最優先させるより伴走することが大切。相談支援員の対応一つで相談者を孤独へ追いやる。とにかく相談支援員は「断らない」こと。相談支援員は、相談者に対して目先の相談だけでなく人生 や世界 を広げる相談を行なう。さらに相談支援員が孤独にならないよう相談支援員に対する支援も必要である。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

① 全体研修

昨年度に引き続き、助成金を活用することで社内に研修コーディネーターを置くことで安定的な研修活動を保持しつつ、外部講師を招聘して専門的な研修を実施することができた。異なる第三者の立場からの視点や助言を得ることが有益だという認識が社員全体で強固なものになった。

② 自主企画

今年度も援助金で自主企画枠を実現することができ、全体研修では取り上げることができなかったテーマやより支援員のニーズに近いテーマを学ぶ機会を創出することができた。自らの企画にあっても外部講師をお願いするようになり、明らかに学ぶ意欲が向上し行動につながった。

③ 外部研修

外部研修は県等の無料の場合に社内に案内していたが、大規模で参加費が必要かつ遠方での宿泊・交通費を伴う研修にはじめて一定数の学習支援員が参加することができた。全国的な研修は著名な講師陣による講演がテーマごとに開かれ、豊富な著書や教材に触れ、全国から来た参加者と交流することによって、知識に加え体験が参加者意欲を高めることになり、参加できなかった支援員にも研修報告がなされることで、よい影響が伝播した。

④ ボランティア研修

社内コーディネーターが運営を工夫して日曜日に研修を実施した。ボランティアに呼びかけ案内をおこない、一方通行でないテーマ別グループトークと全体への発表によるフィードバック、研修後のレポートも作成して全ボランティアに発信した。ボランティアは社会人や学生なので研修の実施回数は多くできないという制約があるが、密度の高い内容でアンケートでも参加者の満足度は高得点だった。

＊ 今後の課題

研修を自立的に運営できる仕組みを構築することが必要と考えられる。社内に設置したコーディネーターにおいては、自身のコーディネート能力を高める勉強の機会もつくっていく。社外コーディネーターにおいては、個人・団体の支援者を増やしながらか講師陣の厚みをもたせていく。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

「2. 実施した奨学活動の詳細」「3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等」ご参照ください。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

<コメント>

学習支援活動は、専門職員、学習支援員、指導員、ボランティアという多層なスタッフが担っている。彼らが質の高い支援活動を提供するためには、貧困を生み出している社会的背景、支援にかかわる諸制度と援助の仕組み、こどもの発達や学習に関する基礎的知識、こどもを取り巻く情報環境、こどもの人権と成長を守るための叡知など広範囲にわたる知識と見識が要求される。加えて、困難を抱えるこどもたちに寄り添える豊かで柔らかな人間性も求められる。

とはいえ、自己肯定感を奪われて複雑な困難を抱えるこどもたちに寄り添う活動は、支援員個人の善意だけでは限界がある。すなわち、支援者にも常なる組織的研修が必要である。それは、支援者の経験的知識や課題・困難を相互に交流しあい、同時に、専門家の知識を学びあうことで支援活動の意味を再確認し、より専門的なスキルを身につけることを目的とする。

この観点から本年度の活動を点検すると、まず、課題となっていた研修コーディネーター設置が実現したことが評価される。研修コーディネーターの活躍によって、本年度、ボランティア研修の工夫がなされ、密度の濃い内容を提供できた。また、助成によって、遠距離で宿泊を伴う外部の専門的な研修に参加する学習支援員への経費補助ができた。外部研修に参加することで、最先端の情報を得られるだけでなく、全国各地の参加者と経験交流することによって、自分たちの支援活動の客観的な評価と自信を得ることができる。研修成果は、報告書を通じて全体に共有される。

助成による研修は、全体研修、自主企画研修、ボランティア全体研修、外部研修など多岐にわたって活用されており、その成果と意義は高く評価される。こうした実績が経年的に継続され蓄積されることが期待される。

山口 和孝(埼玉大学名誉教授)